

群 教 セ	G14 - 04
	平18.232集

総合的な学習の時間の充実に関する研究

— 特色ある取組を行っている学校の工夫 —

《研究の概要》

総合的な学習の時間の取組は、大きな成果を上げている学校がある一方、当初の趣旨や理念が十分に達成されていない学校も見られる。そこで、県内の小・中学校の取組の現状や課題を整理・分析し、特色ある取組を行っている学校への聞き取り調査や学習参観を行った。その結果から、総合的な学習の時間を充実させる工夫を「学校の組織・体制」「単元構想と学習活動」「地域との連携」「計画の改善と引き継ぎ」の観点で、「秘訣」としてまとめた。

I 総合的な学習の時間の充実に向けて

総合的な学習の時間は、自分で課題を見付け、様々な活動を通して、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる時間であり、問題解決的な学習や体験的な学習を通し、自分の生き方について考えることができるようにする時間である。

様々な体験活動や問題解決的な学習を通して、学び方や自己の生き方を考えることができるようにする総合的な学習の時間は、「生きる力」を育てるために重要な学習である。また、子どもの学ぶ意欲や楽しさを育てるためにも貴重である。さらに、教科等の学習が自分の生活や生き方と密接に結びついていることを実感することができる大切な時間でもある。

文部科学省が平成17年6月に発表した「義務教育に関する意識調査」の中間報告書によると、「総合的な学習の時間が好き（「とても好き」「まあ好き」の合計）」と回答した小学生は60.0%、中学生は46.2%であった。また、その結果は他の教科等と比較しても決して高い割合ではなかった。

そこで、総合的な学習の時間にかかわる情報の収集やアンケート調査、全体計画の項目の分析から現状を探り、課題を整理した。

次に、特色ある取組を行っている学校への聞き取り調査や学習参観を行い、充実させるための工夫を明らかにしようと考えた。

最後に、特色ある取組を行っている学校の工夫を秘訣としてまとめ、県内の小・中学校の総合的な学習の時間を充実させるためのパンフレットを作成した。

II 研究の内容と方法

1 県内の小・中学校の現状と課題の調査

(1) 研究報告書の分析

総合的な学習の時間にかかわる現状と課題を調べるために、当センターが行った以下の2つの調査研究報告書の分析を行った。

- ① 『群馬県小・中学校における総合的な学習の時間の充実と改善に向けた研究報告書』
(平成16年3月)
- ② 『群馬県内小・中学校における総合的な学習の時間の評価等に関する調査報告書』
(平成16年12月)

(2) アンケート調査の分析

義務教育課が開催した「平成18年度 第1回群馬県総合的な学習の時間コーディネーター養成講座」（以下コーディネーター養成講座と記述）に参加した小・中・養護学校教員に行ったアンケート（義務教育課作成）の集計と分析を行い、その一部を調査に利用した。

(3) 全体計画の分析

コーディネーター養成講座に参加した小・中・養護学校教員が持参した各学校の全体計画に取り上げられている主な項目について分析を行った。

2 特色ある取組を行っている学校への調査

(1) 管理職・主任への聞き取り調査

特色ある総合的な学習の時間の取組を行っている県内の小学校3校、中学校3校を対象として、取組の現状や課題、工夫等について、義務教育課に同行して聞き取り調査を行った。また、県外の先進校にも調査を行った。聞き取りは、管理職（校長・教頭）と主任（研修主任・総合的な学習の時間主任・学年主任）に対して行った。

(2) 学習参観

聞き取り調査を行った学校の中から、小学校2校、中学校1校で学習を参観し、総合的な学習の時間を充実させるための取組の工夫を探った。

3 取組の工夫を秘訣としてまとめる

各学校の取組が充実したものとなるようにするため、特色ある取組を行っている学校の工夫を整理し、秘訣としてまとめた。

また、秘訣について、聞き取り調査や学習参観から得られた具体的な工夫の事例を取り入れたパンフレットを作成した。そして、作成したパンフレットが、各学校の総合的な学習の時間を充実させるために有効な資料であるかを置籍校を含めた4校の職員に配付し、アンケート調査を行った。

Ⅲ 研究の結果と考察

1 総合的な学習の時間の現状と課題

(1) 研究報告書の分析

① 『群馬県小・中学校における総合的な学習の時間の充実と改善に向けた研究報告書』による総合的な学習の時間の主な現状と課題は、以下の通りである。

○ 全体計画・年間指導計画は、多くの学校で作成されているが、目標や評価の観点、評価規準が設定されていない学校も目立った。また、学校によって、計画の整備状況に差が見られた。

○ 計画の見直しや改善を行っている学校は少なかった。見直し・改善が進まない背景には、教員の意識や協力体制、時間確保など、様々な要因が考えられる。

② 『群馬県内小・中学校における総合的な学習の時間の評価等に関する調査報告書』による総合的な学習の時間の主な現状と課題は、以下の通りである。

○ 教員側から見た「総合的な学習の時間の学習を通して身に付いた力」については、小・中学校とも、「情報を自分で集め、調べ、まとめる」の項目が高く、「学習したことを生活に生かす」「自己の生き方を考える」の項目は低かった。このことから、学び方は身に付いてきているが、生活の仕方や生き方を考えるまでは至っていないことが課題である。また、教員が見取りやすい項目で評価を行う傾向があり、評価の在り方が課題であると考えられる。

○ 評価（身に付いた力の把握）だけでなく、指導方法や指導体制、単元計画、教材研究の時間の不足、各教科等との関連や発達段階を踏まえた学年間の系統性などを今後の課題としている学校が多かった。このことから、各学校は、様々な課題を抱えていることが分かった。

○ 小・中学校間で話し合う機会をもっている学校は約1割であった。校種間における情報交換の機会を十分もてていない現状がある。

(2) アンケート調査の結果

○ アンケート調査の期日：平成18年8月21日
(義務教育課実施)

○ 対象：コーディネーター養成講座に参加した小・中・養護学校教員（各校から1名参加）
〔小学校教員59名、中学校教員42名（養護学校教員2名を含む）〕

○ 調査結果と考察

① 総合的な学習の時間のねらいの達成度

図1で示すように、総合的な学習の時間のねらいを達成していると回答した教員は、小・中学校とも過半数を超えていた。また、ねらいを達成していないと回答した教員も、小・中学校ともに40%程度と高い割合であった。

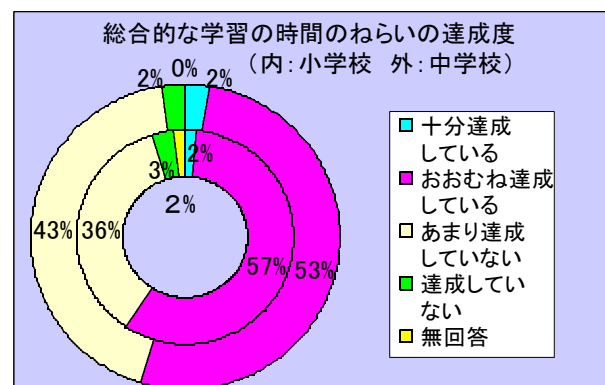


図1 総合的な学習の時間のねらいの達成度

このことから、本県でも総合的な学習の時間の取組は、学校によって差が大きいことが考えられる。また、ねらいを達成していないとする回答が多いことから、総合的な学習の時間の趣旨や理念と異なる学習が行われていたり、ねらいが具体化されていない学習が展開されていたりするなどの状況があると考えられる。

② ねらいが達成されていない原因

①でねらいが「あまり達成していない」「達成していない」と答えた教員に、その原因が何かを

回答してもらった（複数回答可）。その結果を図2で示す。

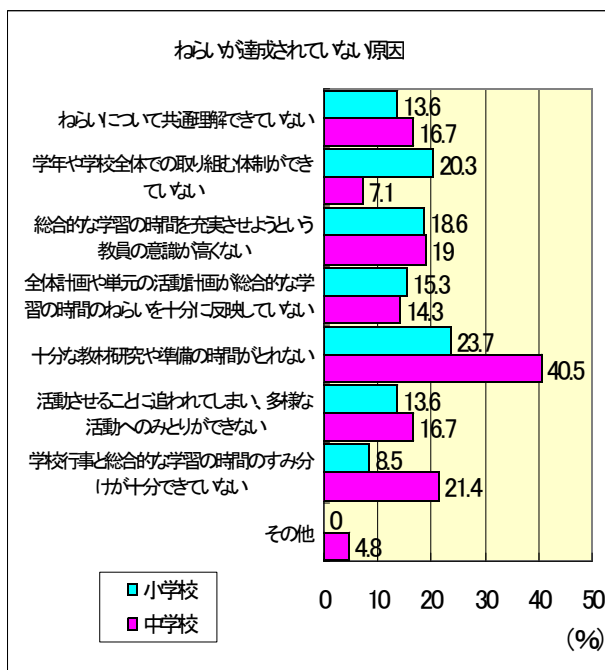


図2 ねらいが達成されていない原因

ねらいが達成されていない原因として最も多かった回答は、小・中学校ともに「十分な教材研究や準備の時間がとれない」ことであった。総合的な学習の時間は、学習内容が各学校に任されているため、教材研究や準備に多くの時間が必要となる。しかし、各学校では、その時間の確保が難しく、準備不足や教材研究不足のまま学習を行っている現状があると考えられる。

また、中学校では、「学校行事と総合的な学習の時間のすみ分けが十分できていない」との回答が多かった。総合的な学習の時間に、修学旅行などの学校行事を含めることで、行事の準備時間を確保したり、教員の負担を軽減したりしたいと考えていると思われる。

小学校では、「学年や学校全体での取り組む体制ができていない」ことが大きな原因としてあげられていた。小学校では、学級独自で学習を進めることも多く、担任の意識の差が学級の取組の差に直接結びついていると考えられる。

さらに、上記の結果では、他のいずれの項目でも10～20%程度の回答があることから、複数の原因がかかわり合っていたり、学校によって原因が異なっていたりすることが分かる。

総合的な学習の時間を充実させるには、その準備や教材研究のために使える時間をいかに確保す

ることができるかが最大の課題である。

③ 総合的な学習の時間を充実させるために学校として取り組みたいこと

コーディネーター養成講座の研修を生かして、総合的な学習の時間を充実させるために、学校としてどのようなことに取り組んでいきたいかを参加者全員に回答してもらった（複数回答可）。その結果を図3で示す。

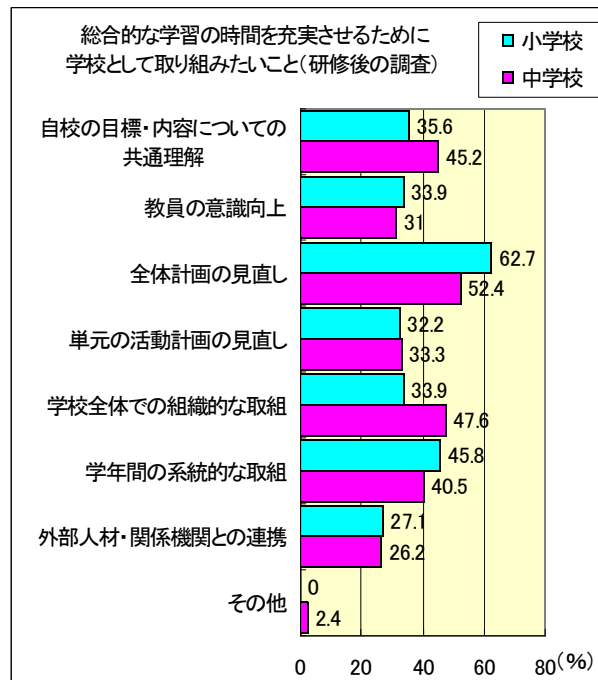


図3 総合的な学習の時間を充実させるために学校として取り組みたいこと

コーディネーター養成講座の研修内容は、全体計画が中心であったため、「全体計画の見直し」という回答が過半数を超えたと考えられる。しかし、他のほとんどの項目も小・中学校通して30%を超える高い割合であった。

このことから、多くの主任は、自分の学校の取組を充実させるために、取り組まねばならないことが複数あることを意識している。どの学校も総合的な学習の時間には、様々な課題が存在し、充実した取組にするためには、多くの課題を解決する必要があると考えられる。

(3) 全体計画に取り上げられている項目の分析

まず、コーディネーター養成講座に参加した教員が持参した各学校の全体計画を校種別に整理した。次に、全体計画に取り上げられている項目を調べ、その割合を求めると、図4のようになった。

なお、収集した全体計画の中に年間指導計画のみの学校があったため、分析の対象となったのは、

小学校54校（県内の全小学校の約16%）、中学校38校（県内の全中学校の約22%）であった。また、養護学校1校の全体計画は、中学校に含めて集計した。

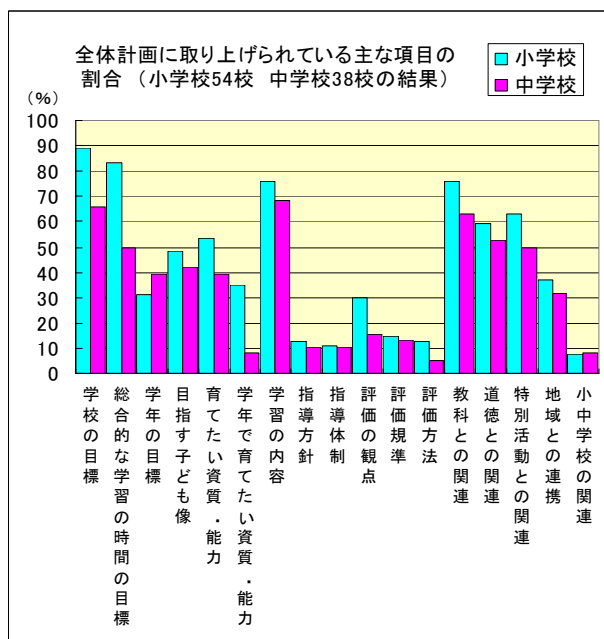


図4 全体計画に取り上げられている主な項目（小学校54校 中学校38校の結果）

同じ項目について、小・中学校間で比較を行うと、ほとんどの項目で小学校の方が取り上げられている割合が高かった。

取り上げられている割合が高かった項目は、「学校の目標」「総合的な学習の時間の目標」「学習内容」「教科や道徳・特別活動との関連」等であった。取り上げられている割合が少なかった項目は、「指導方針や指導体制」「評価の観点、評価規準、評価方法」など評価にかかわる項目等であった。

また、「総合的な学習の時間の目標」や「目指す子ども像」に比べ、「学年の目標や学年で育てたい資質・能力」を取り上げている割合が低かった。

次に、総合的な学習の時間で取り上げられている学習内容は、教科等の内容と関連ある内容から設定している学校が多かった。しかし、「学習の内容」に比べ、「学年の目標や学年で育てたい資質・能力」の割合が低いことから、学習を通して育てたい力が不明確であったり、共通理解されていない状況があると思われる。

これは、総合的な学習の時間の創設に際し、各学校では、単元の作成が最初に行われたために、

系統性や資質・能力などの共通理解が十分でなかったことが原因の一つであると考えられる。

また、研究報告書の分析から見えた課題と同じ項目で、取り上げられている割合が低かったことから、全体計画・年間指導計画を含めた計画の見直し・改善が進んでいないことが考えられる。

今回の調査では、学校によって全体計画に記述されている項目や内容の差も大きかった。

2 特色ある取組を行っている学校の調査結果

(1) 聞き取り調査・学習参観を実施した学校

県内の特色ある取組を行っている小・中学校6校（各教育事務所推薦）で、総合的な学習の時間の現状や総合的な学習の時間を充実させるための取組の工夫を中心に聞き取り調査を行った。また、県外の小学校1校にも調査を行った。

さらに、聞き取り調査では見えにくい学習場面における工夫を探るため、学習参観を3校で行った。調査を行った学校とその期間は、以下の通りである。

○ 調査を実施した県内の学校

聞き取り調査：高山村立高山小学校
前橋市立第三中学校
東吾妻町立岩島中学校

聞き取り調査と学習参観：

高崎市立寺尾小学校
邑楽町立中野東小学校
高崎市立塚沢中学校

調査期間：平成18年8月～11月

○ 調査を実施した県外の学校

横浜市立戸部小学校

〔文部科学省総合的な学習の時間モデル事業実践校〕

調査日時：平成18年6月7日

(2) 調査から分かった取組の工夫の共通点

特色ある取組を行っている学校は、総合的な学習の時間を充実させるために様々な工夫を行っていることが聞き取り調査から分かった。また、その工夫には、共通点が見られることが分かった。これらを総合的な学習の時間を充実させるためのポイントと考え、整理を行った結果、「学校の組織・体制」「単元構想と学習活動」「地域との連携」「計画の引き継ぎと改善」の4つの観点にまとめることができた。そして、4つの観点で整理した充実のポイントと具体例を「総合的な学習の時間を充実させる共通点」として次のようにまとめた。

総合的な学習の時間を充実させる共通点

【学校の組織・体制を活性化する工夫】

- 総合的な学習の時間の趣旨を理解した熱意のある校長や主任がリーダーシップをとっている。
 - ・総合的な学習の時間を学校づくりの中心と位置付け、充実に向けて取り組んでいる。
 - ・校長自らが学習に参加するなどして、各学年で取り組んでいる学習内容を把握している。
 - ・校長や主任を中心に、先進校の視察や情報の収集を行い、職員への伝達・浸透を図っている。
- 校内研修や研究授業、授業公開を年間行事予定に位置付け、実施している。
 - ・年間通して、校内研修の時間を確保し、職員の共通理解を図っている。
 - ・研究授業（地域や他校への授業公開）を計画的に位置付け、実践している。
 - ・学校公開日を計画に位置付け、学習を公開することで、職員相互の意識や意欲を高めている。
- 職員相互の協力・相談体制を整え、職員の不安や負担を軽減している。
 - ・教材研究や準備を学年内で役割分担しながら行うことで、職員の不安や負担を軽減している。
 - ・職員の得意分野を生かすなど、全職員が協力して学習にかかわることで、不安を軽減している。
 - ・学年TTによる学習を取り入れることで、職員相互の協力と相談が行えるようにしている。



校長の学習への参加



研究授業の実施



現地での職員相互の打ち合せ

【魅力ある単元の構想と学習活動の工夫】

- 学校の明確な考えに基づいて、単元を構想している。
 - ・学校の柱となる領域を全学年通して学習できるように構想し、学年間の系統性を重視している。
 - ・教科等との関連を重視した単元を構想し、学習経験や生活経験が生かせるようにしている。
 - ・学校や地域の特色から単元を構想し、地域の人材や施設と積極的に協力を行い、学習している。
- 身近な地域で、生き生きと学習できる実感的な体験活動を継続的に行っている。
 - ・身近な地域で、本物に触れる体験活動を繰り返し行い、学習意欲が高まるようにしている。また、多様な課題の設定や自分自身で体験できる方法で追究できるようにしている。
 - ・様々な立場の人と交流する活動を行うことで、ものの見方や考え方を広げたり、深めたりできるようにしている。また、社会の仕組みやルール、コミュニケーションのとりかたが学べるようにしている。
 - ・自分の考えや感情の変化を自分の言葉で表現できるように、体験して気付いたこと、感じたこと、思ったこと、これからの自分に生かしたいことなどを中心にまとめるように支援している。
 - ・中間発表会や友達と意見交流できる場を設定し、多様な考えをもとに意見を練り上げている。
 - ・自分自身の行動や考えを振り返る場を設定し、今後に生かせそうなことを考え、深めている。

1年 響き合い学習 「人にやさしい町づくり」

1学年テーマ
「人にやさしい町づくり」をめざして、
自分たちのできることを考えよう。

2年 響き合い学習 「福祉体験学習」

2学年テーマ
福祉体験学習を中心とした活動を通して、
人の一生や生き方、自らの住む地域について考えよう。

3年 響き合い学習 「保育体験学習」

3学年テーマ
保育体験学習を中心とした活動を通して、
命の大切さを学び、人の一生や自らの生き方を考えよう。

地域や学校の特色を生かした単元構想



実感を伴った体験活動



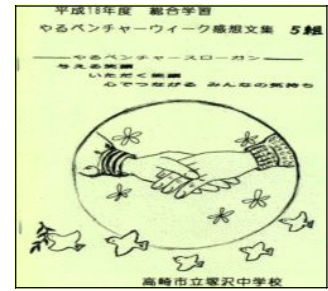
中間発表会と意見交流



地域や保護者に向けた発表会

＜感想とまとめ＞
 僕はこの体験を通して、三つの事を学びました。
 一つは、お母さんや先生の方々と自己支援のり介助すること
 の大切さです。二人では出来なかった人を助けてあげること
 の大切さの体験ができました。
 二つ目は、お母さんや先生の方々とコミュニケーションの大切さです。自分の
 感じたことや思いを伝えることが大切だと学びました。
 三つ目は、お母さんや先生の方々と一緒に活動することの大切さです。
 今日体験したことは、今後の生活に活かしていきたいです。
 最後は、お母さんや先生の方々と一緒に活動することの大切さです。
 体験を通して、お母さんや先生の方々と一緒に活動することの大切さ
 を学びました。これからも、お母さんや先生の方々と一緒に活動
 していきたいです。

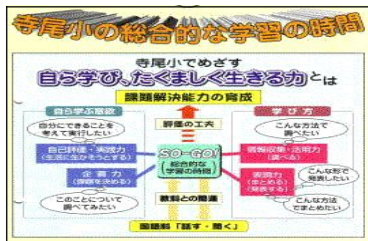
自分の考えや行動の振り返り



友達のことを知る感想文集

【地域との連携を深めるための工夫】

- 地域や保護者に学習の成果や経過、総合的な学習の時間の考え方を積極的に発信している。
 - ・ 学年通信や保護者会、学校独自のパンフレットを活用して、学習の考え方を発信している。
 - ・ 学年通信や地域への発表会（学校公開）を通して、学習の経過や成果を発信している。
 - ・ 学校評価に総合的な学習の時間の項目を加え、保護者の考え方を把握できるようにしている。
- 地域の人材との交流や施設との連携を積極的に図っている。
 - ・ 校長をはじめ職員が積極的に地域に出かけ交流することで、信頼感が得られるようにしている。
 - ・ 地域との交流から人脈を広げ、学習の支援が行える人や施設の人たちと連帯感を高めている。



家庭に配付するパンフレット



地域の方を先生とした学習



地域の施設を活用した学習

【計画の改善と引き継ぎにおける工夫】

- 実践の成果と課題を明確にした見直し・改善を行い、確実な引き継ぎが行われている。
 - ・ 学年会や授業研究会での話し合いから成果や課題を明確にし、計画に朱書きをし、次年度へ引き継いでいる。
 - ・ 次年度の担当と話し合いを行いながら、実践の成果と課題を中心に引き継いでいる。
 - ・ 研究授業や学校公開の成果や課題から、計画の見直し・改善を行っている。
- 多様な観点から全体計画や年間指導計画の見直し・改善が行われている。
 - ・ 授業研究会や学校公開で出された職員・地域・保護者の意見をもとに見直し・改善している。
 - ・ 指導主事訪問等の機会を生かして、指導を受けた事項について見直し・改善している。
 - ・ 1学期の実践から出された課題を校内研修で共通理解し、夏季休業中に見直し・改善している。
 - ・ 総合的な学習の時間と教科等との関連図を作成し、計画の見直し・改善をしている。

5年 SO-GO! 単元構想		私たちが健康に生きていくことと食! 46時間扱い					
単元の目標	単元の系統	単元の評価規準(白)					
食に関する様々な課題や摂取方法、食生活を取り巻く環境について、調べたり、発表したりしたことをもとに考えていくことで、自分たちが健康に生きていくために、どのようなことを心がけて生活していったらよいかを気付き、実践していくことができる。	6年 4～1月 (40) 米づくりしよう! 6年 9～1月 (46) 私たちが健康に生きていくことと食! 5年 2～3月 (12) 1年間のSO-GO! をまとめよう!	1 企画力	2 情報収集・活用能力	3 表現力	4 自己評価・実践力		
小単元	時間	ねらい	学習活動	形態	支援・留意点	準備	学習活動における具体的評価規準
①身のまわりの食について考えよう	2	食について関心があること、気づいたことを話し合い、自分たちが取り巻く食の環境について興味を持つ。	・食について、考えていることや疑問、興味を出し合う。 ・出された意見の内容を一つ一つ確認して、クラスの共通理解を図る。	一斉	・食についての疑問や興味を持っていることは、何でも出し合うことで、食を幅広く扱えるようにする。 ・出された疑問等をみんなの知識で解決したり、自分たちの生活との関わりで考えたりできるようにする。	○	・食についていろいろな意見を出し合うことで、身のまわりの食の環境に興味をもつ。(観察)
②食について	1	自分たちが気づいた食に関する問題点を確認し、学習のめあてを持つ。	・自分たちが気づいた食は切り離せないものであることに気づく。	一斉	・自分たちの生活との関わりの中で、特に気になるところを見つける。	○	・食と自分たちが生活との関わりについて気づくことができる。(観察)
③食について		食について、クラスで	・興味・関心に基づき、	一斉	・自分一人でも課題を考	○	・話し合ったことを

実践の成果と課題から改善を行った単元構想(例)

5年 総合的な学習の時間と教科の関連表	
「米づくりから食を考えよう」	
内容の関連	
国語科	調べたことを整理して書く 伝え合って考えよう 目的に応じた伝え方を考えよう
社会科	わたしたちの生活と食料生産 ・米づくりのさかんな庄内平野 ・これからの食料生産とわたしたち
理科	種子の発芽と成長 食や種子のできかた
家庭科	わたしにできることをやってみよう ・簡単な調理をしてみよう 作っておいしく食べよう
道徳科	ごはんのみそ汁をつくらせよう ・どんなものを食べているだろう ・バランスのよい食事をしよう

教科等との関連の明確化

3 各学校の取組を充実させるために

(1) 4つの秘訣と充実させるための手だて

各学校の総合的な学習の時間の取組を充実させるために、特色ある取組を行っている学校の工夫として共通していることを4つの秘訣として整理した。また、それぞれの秘訣について、充実させるための手だてをまとめた。4つの秘訣と充実のための手だては、次のようである。

秘訣1 教職員のやる気を引き出す組織づくり (学校の組織・体制の活性化)

＜充実のための手だて＞ 総合的な学習の時間の趣旨を理解した熱意のある校長や意欲的な主任が、校内研修や研究授業を充実させ、職員の共通理解を図ります。また、個々の得意分野を生かす役割分担や協力相談体制を整備し、職員全体の意識を高め、やる気を引き出します。

秘訣2 地域の特色を生かした体験学習の構想 (魅力ある単元の構想と学習活動)

＜充実のための手だて＞ 育てたい資質・能力や目指す子ども像をもとに地域や学校の特色を生かした単元を構想します。そして、地域の中で実感を伴った体験活動を継続的にを行い、中間発表会と意見交流の場を設定することで、考えを広めさせたり、深めさせたりします。また、様々な立場の人との交流から、生き方や知恵を学ばせたり、社会の仕組みに気付かせたり、自分自身の考え方や行動の仕方を振り返らせたりします。

秘訣3 地域との信頼が深まる情報発信 (地域との協力・連携)

＜充実のための手だて＞ 学習への理解や協力が得られるように、地域や保護者に総合的な学習の時間の進め方や成果を発信します。また、地域の人材や施設と積極的に交流し、連携を深めます。特に、発表会は地域や保護者の理解や協力が得られたり、相互の信頼感が高まったりするよい機会となります。

秘訣4 成果と課題を次に生かす引き継ぎ (計画の改善と引き継ぎ)

＜充実のための手だて＞ 様々な機会をとらえ、学習の成果と課題を整理して、計画の見直し・改善を図ります。そして、確実に引き継ぎます。また、各教科等との関連を図ったり、学年間の系統

性を明確にしたりするなど、多様な観点から計画の見直し・改善を行い、よりよいものにバージョンアップしていきます。

(2) 各学校の取組を見直す視点

総合的な学習の時間は、学習指導要領にも目標・内容等が示されておらず、その実施については各学校の創意・工夫に委ねられている。

特色ある取組を行っている学校の工夫から考えた4つの秘訣と充実させるための手だては、各学校の総合的な学習の時間を充実させるために参考となると考える。

そこで、4つの秘訣について、自分の学校の取組の弱い点を探り、見直し・改善が行えるように見直しの視点を考えた。この考え方をまとめると、図5のように表すことができる。

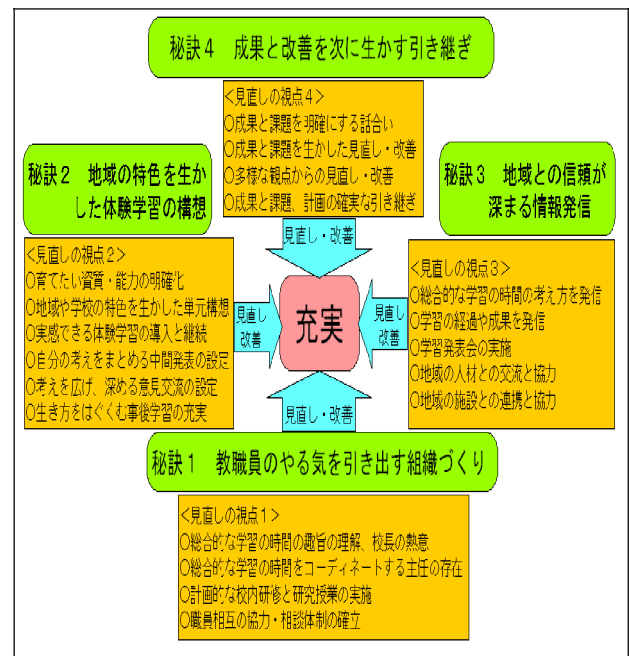


図5 取組を充実させる4つの秘訣と見直しの視点

4 各学校の取組を充実させる手だて

(1) パンフレットの作成

県内の小・中学校の現状と課題の調査結果から、各学校は、総合的な学習の時間を充実させるために、解決していかなければならない様々な課題があることが分かった。

そして、様々な課題を抱えている学校の教員も、総合的な学習の時間を少しでも充実させたいと考えていることが分かった。

そこで、各学校の取組を充実させる方策として、図6のようなパンフレットを作成した。作成したパンフレットは、表紙を含め6ページとし、1つ

の秘訣が1ページにまとめられるように構成した。

内容については、4つの秘訣について、それぞれいくつかの見出しを付け、特色ある取組を行っている学校の工夫の具体例を図や写真で紹介するようにした。また、図や写真にコメントを付けることで、取組の工夫が理解できるようにした。さらに、それぞれの秘訣について、充実への手だてを加えた。

また、4つの秘訣のほかに、学習活動がスムーズに行えたり、学習意欲を高めたりする学習を支える様々な工夫の具体的な例を写真とコメントで紹介できるようにした。

最後に、自分の学校の取組を見直すことができるように、図5で示した取組を充実させる4つの秘訣と見直しの視点を加え、見直し・改善を進めやすいようにした。



図6 パンフレットの表紙

(2) 作成したパンフレットの試行

作成したパンフレットが各学校の総合的な学習の時間を充実させるために有効なものであるかを小・中学校の職員に調査した。

調査は、職員にパンフレットの試作版を配付し、アンケート形式で行った。

- 調査実施校：前橋市立荒牧小学校
高崎市立寺尾小学校
邑楽町立中野東小学校
高崎市立塚沢中学校

○ 回答者数：69名（校長・教頭を含む）

○ 調査実施期間：平成19年1月下旬

アンケートの質問項目と結果、考察は、以下の通りである。

① パンフレットは見やすいと思いますか。

パンフレットの見やすさについては、図7で示すように、80%以上の教員がおおむね見やすいと答えている。主な理由としては、具体例が図や写真で示されていた点があげられた。また、見やすすくないと回答した意見には、「ページに比べ、情報量が多い」「資料の文字が小さい」等があった。

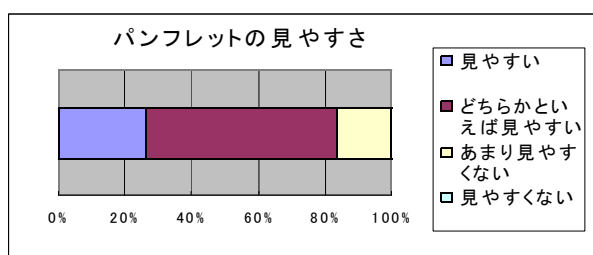


図7 パンフレットの見やすさ

② どのページが参考になりましたか。

(複数回答可)

図8で示すように、秘訣4や学習を支える様々な工夫は回答が多かった。また、「充実させるまでの経過や苦勞、充実させるためのポイントが書かれると各学校の取組の参考となる」や「各学校が、自分の学校の取組の参考にして実践することが大切」という意見があげられた。

自分の学校の取組を充実させるためには、特色ある取組を行っている学校の例だけでなく、そこに至るまでの過程を知りたいという考えがあることが分かった。

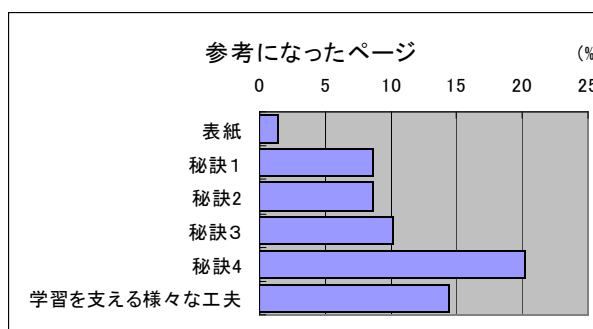


図8 参考になったページ

③ 各ページのどの部分が参考になりましたか。(複数回答可)

図9で示すように、特色ある学校の取組の具体例が60%を超えたことから、特色ある充実した取

組を行っている学校の情報を得て、参考にしたいと考えている教員が多いことが分かった。

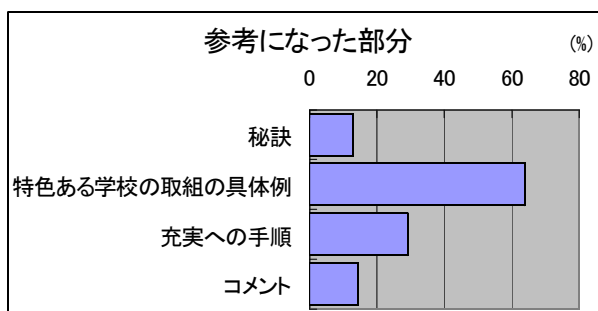


図9 各ページの参考になった部分

④ パンフレットは、総合的な学習の時間を充実させるために有効であると思いますか。

図10で示すように、80%近くの職員からおおむね有効であるとの回答が得られた。しかし、「各学年の具体的な目標や育てたい力、評価の観点、指導案、発表マニュアルなど現場ですぐ活用できるものを掲載するとよい」「他の学校の事例もあればよい」という意見があった。現場の教員は、目標のモデルなど、より具体的な資料の掲載を望む声や他校の情報を参考にしたいという考えがあることが分かった。

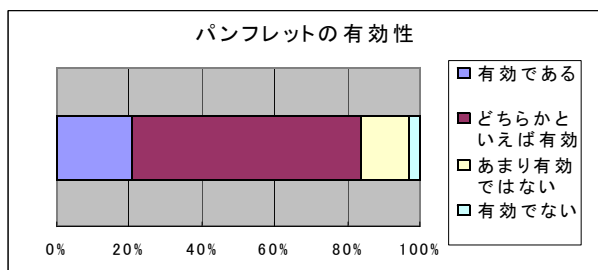


図10 パンフレットの有効性

(3) パンフレットの活用方法

パンフレットは、児童生徒の成長を指導者が相互に確認し合いながら進めていくことで有効に活用できると考える。

パンフレットを各学校で活用するための一例をあげると次のようになる。

- ① 4つの秘訣と見直しの視点から、自校の取組の状況を全職員でチェックする。
- ② 校内研修で、取組が十分でなかった点について、秘訣と充実のための手だてから改善計画をたてる。
- ③ 全職員で、見直し・改善の作業を行う。
- ④ 改善した部分について、共通理解を図るとともに、十分に改善ができなかった点について、

その理由を明らかにして、今後どのように改善していくかを考える。

V 研究のまとめと今後の課題

1 研究のまとめ

研究を通して、以下の点が明らかになった。

- 県内の小・中学校の総合的な学習の時間は、学校間で取組に差があることが明らかになった。そして、各学校では、教材研究や準備の時間が確保できないことをはじめ、多様な課題があることが明らかになった。また、教員は、多様な課題を解決したいという意識が高いことも分かった。
- 全体計画の分析から、各学校では、計画の見直し・改善が進んでいないことが明らかになった。特に、学年で具体化すべき目標や育てたい資質・能力や評価、指導体制・指導方針等の整備等が進んでいないことが明らかになった。
- 特色ある取組を行っている学校には、取組を充実させるための工夫に次のような共通点が見られることが明らかになった。
 - ・育てたい資質・能力を明らかにして、学校や地域の特色を生かした単元を構想している。
 - ・身近な地域で体験や交流活動を繰り返し、中間発表や友達との意見交流の場、自分自身を振り返る場を設定している。
 - ・保護者や地域に積極的に情報を発信し、総合的な学習の時間の理解と協力、信頼が得られるようにしている。また、地域の人材や施設と積極的に交流し、協力や連携を図っている。
 - ・実践の成果と課題をもとに計画の見直し・改善を行い、確実な引き継ぎを行っている。また、多様な観点から見直し・改善を行っている。
 - ・校長や主任を含め全職員が総合的な学習の時間の趣旨を理解し、校内研修や研究授業を充実させ、共通理解を図るとともに、協力や相談できる体制が整備されている。
 - ・学習意欲を高めたり、継続できたりするような様々な工夫がなされている。
- 総合的な学習の時間を充実させるには、特色ある取組を行っている学校の工夫を参考に自分の学校の取組を見直し・改善していくことが有効である。
- 作成したパンフレットは、各学校の総合的な

学習の時間を充実させるために、有効であると
考えられる。

2 今後の課題

- ねらいが十分達成されていないと回答している職員について、学校全体の取組の意識面の改善について課題が見える。
- 教材研究や準備の時間が十分確保できていない現状が見られた。これについて、学年間の協力や教材や計画の引き継ぎ等、より具体的な方策の提案が必要である。
- 学校の総合的な学習の時間を支えるには、保護者をはじめ地域人材や施設の協力が大きい事が分かった。今回は具体的な方法については示せなかったが、各学校が地域の実態を生かした工夫が望まれる。
- パンフレットは、今後、校内研修等で取り上げ、有効性を探るとともに、普及を図りたい。
- 聞き取り調査から、総合的な学習の時間の活動に対する予算や人材の支援を行っている教育委員会がある。地域との協力が重視される総合的な学習の時間では、取組の一層の充実のため、予算や人材の支援を行うことが課題である。
- カリキュラムセンター開設に伴い、各学校の総合的な学習の時間の計画等を蓄積し、活用できるように整備を図りたい。

3 教育行政への提言

本研究の結果から、以下の提言を行う。

- 1 コーディネーター養成講座は、推進者となる主任等の資質向上に有効であるため、今後もコーディネーター養成講座の継続が望まれる。
- 2 ”行事総合”と言われるように、本来の趣旨やねらいと異なる取組を行っている学校がまだまだに存在している。総合的な学習の時間の趣旨や意義を再確認する研修を中核となる職員に行うとともに、学校への人的・物的支援を行う必要がある。
- 3 特色ある取組を行っている学校の情報を市町村教育委員会相互で共有し、小・中学校の連携も含め、情報交換できる場を設定することが望まれる。
- 4 教材研究や準備が行える時間の確保ができるように、市町村教育委員会は、各学校に予算や人材の支援を行うことが望まれる。
- 5 県教育委員会のWebページに充実に取り組

んでいる学校の情報を取り上げたり、総合教育センターに資料を集約し、活用できる環境整備を望む。

4 学校への提案

本研究の結果から以下のことを提案する。

- 1 総合的な学習の時間の趣旨や意義を再認識するとともに、ねらいが達成できるように、育てたい力を明確にした単元を構想する。さらに、身近な地域で、継続して実感できる学習活動を展開する。
- 2 校内研修に総合的な学習の時間の研修を計画的に位置付け、自校の取組を特色のある学校の具体例や見直しの視点から振り返り、取組の弱い点を改善する。
- 3 特色ある学校の視察や情報収集を積極的に行うなどして、職員の意識改革を図る。
- 4 総合的な学習の時間をコーディネートする職員を育成し、職員と地域の協力体制を確立する。
- 5 教材研究や準備、引き継ぎ等の時間を確保するために、月別行事予定表等に計画を位置付ける。

Web 検索キーワード

【総合的な学習の時間 特色ある取組 充実調査 小・中学校】

<参考文献>

- ・奈須 正裕 編集 教職研修 2月号増刊 『確実に力のつく総合的な学習の時間マネジメント』 教育開発研究所(2006)
- ・『群馬県小・中学校における総合的な学習の時間の充実と改善に向けた研究報告書』 群馬県総合教育センター(2004)
- ・『群馬県内小・中学校における総合的な学習の時間の評価等に関する調査報告書』 群馬県総合教育センター(2004)

<共同研究者>

グループリーダー 齋藤 俊明
指導主事 ※ 大島 修 関口 満
(※研究チーフ) 浅見 一秋 小池 千秋
中西 信之 田村 克美
長期研修員 新井 晶人

